

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をフロアに掲げ、ミーティング時には唱和し、その目標に沿った支援が出来るように努めている。	法人の理念をカードにし職員にも配布しリビングにも掲げている。職員全員で考えた「地域と共にその人がその人らしく安心して生活できるほほえみの家」というホームの理念を、月1回、全員参加のミーティングで唱和し実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの方とのお茶会を月に1回開催している。散歩の際は挨拶や言葉を交わしている。	自治会費を納め地区の住民として活動している。毎月21日は法人の日として13時半～16時まで見学会を開催し、地域の方に気軽に寄っていただけるよう開放している。地元の小学校から運動会の招待状をいただき、見学をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	スタッフ全員が認知症サポーターの要請講座を受け、サポーターとして地域に貢献できるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	状況報告をする中から得られた意見を参考にさせていただき、サービス向上に活かせるよう努力している。	民生児童委員、市議員、市担当者、地域包括支援センター職員、ホーム職員で構成し、時には消防署職員、交番所長にも参加いただき、ホームの現状説明や報告等を行い、意見を頂いている。家族にも運営推進会議の主旨を説明し、参加を呼びかけている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席いただき助言をいただき協力関係を築くよう取り組んでいる。	市から派遣される2名の介護相談員が年4回来訪し、利用者の相談にのっている。管理者は認知症サポーター養成講座の講師を務め、地元地区の認知症への理解を深めるための啓蒙活動に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のない介護について研修し職員の理解を深め、身体拘束のないケアに努めている。	「身体拘束のない介護」についてのマニュアルを基に年1回内部研修を開きケアに活かしている。身体の保護のため緊急やむを得ない場合には、利用者または家族に説明し同意を得、記録を残し、早期の解除に向けて検討を重ねている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての研修を行い職員の理解を深め、虐待防止に努めている。		

ニチイケアセンター上田緑が丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は対象となる入居者はいない。今後活用できるように、学習の機会を持てるよう努力する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約は十分な説明を行い、疑問については質問してもらい説明をし、納得していただき理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所された時は職員と話す機会を作り、意見交換できる環境作りに努めている。家族会は発足させたが定期的な会にはなっていない。	希望や要望等を伝えることが困難な利用者には日々の生活の中で感じ取るよう心掛けており、つぶやき等を記録し、職員間で共有しながらケアに活かしている。家族には面会時に声掛けし要望等をお聞きしている。遠方の家族には月1回電話で利用者の様子を知らせ、意見・要望を頂いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務ミーティングや日常の業務の中で意見や提案を聞き、話し合える時間が持てるよう努めている。	月1回の、全員参加の業務ミーティング時に出た意見をサービスの質の向上に活かしている。交代勤務により欠席の場合には会議録にて確認している。職員研修時に1年間の目標を立て、翌年2月には管理者と個人面談を行い法人に提出し処遇等に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じ面談を行い上司と情報共有するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外問わず研修の周知を行っている。毎月研修会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	物忘れネットワークや事例検討会等への参加によりネットワーク作りや同業者と交流する機会を持ちサービスの質の向上に努める努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話を聞くと共に様子からも感じ取り、安心を確保するための関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込時や事前訪問時に時間をかけ話を聞き寄り添うことで関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要か柔軟に見極め話し合い対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活に必要な毎日の流れを大切に、協力して生活していけるような関係を築けるよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	気軽に面会に来てもらい暮らしぶりを感じてもらうことと、家族の絆を大事にできる時間を持ってもらうことで、共に本人を支えていく関係が築けるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や人のもとへ家族と一緒に出掛ける環境作りや、友人にも気軽に面会に来てもらえる雰囲気作りをしている。	遠方の友人の来訪を迎える利用者がいる。馴染みの床屋や美容院、お墓参りに家族と出掛けたり、利用前に住んでいた家を家族と見に行き近所の知人とおしゃべりをしたりするなど、馴染みの関係の継続を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で自然に生まれる協力する係わりや、個性を尊重し、支えあえる関係が築けるよう支援している。		

ニチイケアセンター上田緑が丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援が必要な方がいれば、これまでの関係を大切に相談や支援に努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望をその人の言葉やそれ以外の部分から発信されるものから理解するように努めている。またスタッフ間の話し合いのなかからも検討している。	利用契約時に生活歴などを聞き、それらを参考に日々の生活での要望に沿えるよう支援している。また、センター方式を活用し一人ひとりの情報を記録しており、つぶやきなどもその都度追記し、職員間で共有しケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族から聞き取りをし、また本人との係わりの中で分かってくることを記録に残している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の中から見えてくるものを記録に残し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングで利用者の現状を把握し、担当者会議を行い介護計画の見直しを行っている。	職員による利用者担当制をとっており、個々の日常生活支援シートを基に短期では6ヶ月、長期で1年、あるいは介護保険の有効期限に担当職員と計画作成担当者が中心となって立案し、モニタリングを行い、全員参加のミーティング時に見直しをしている。状態に変化が生じた時にはその都度計画の見直しを行い、家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきを介護記録に残し職員間で情報共有をしている。必要に応じて会議を開き見直しや実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々生まれる様々なニーズに対し、スタッフ間で柔軟に話し合い対応するよう努力している。		

ニチイケアセンター上田緑が丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会、民生委員やボランティア、警察や消防の協力を得ながら安全な暮らしが送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご家族で対応していただき、希望があれば往診もしていただいている。	利用契約時に協力医があることを説明し、希望をお聞きしている。利用前からのかかりつけ医を継続している方もいるが、受診の付き添いは家族にお願いしているため、ホームの協力医による月1回の往診に切り替えた方もいる。また、訪問歯科診療、口腔内清掃、義歯等の治療も月1回行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携体制が取れるように検討していく。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携室との情報交換や相談に努め、安心して退院できるよう連携を図っていく。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に医療依存度が高くなった場合は対応が難しくなることを説明している。重度化した場合に備えて早い段階から今後の話し合い、支援できるように努めている。	重度になった場合の支援方針が作成されており、利用契約時に説明し希望をお聞きしている。状態に変化が生じ医療行為が必要とされた時点で支援方針に沿って、主治医、家族、管理者により話し合いを行い、希望に沿えるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置と緊急時の対応について研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、災害時の対応を身につけている。地域の方にも訓練のお知らせはしているが参加いただくまでに至っていない。	災害時対策マニュアルを基に研修し、年1回は消火・避難・通報訓練、1回は避難・夜間想定訓練を行っている。その都度、反省会を開き、それぞれの役割や担当についての課題を検討している。年1回は、消防署職員も立ち会っていただくようお願いしている。地区防災訓練の情報もいただき参加を予定しており、ホームとして備蓄や介護用品の備えもあることから非常時には地区と相互に協力体制をとれるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重した言葉かけや対応をすよう努めている。	プライバシー保護や個人情報保護について年1回、内部研修を行っている。月1回開いている業務ミーティングでも日頃の利用者への声掛けなどについて確認し、ケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる環境作りを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしく一日が送れるよう暮らしのリズムを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ヘアカットの希望で美容師が来てくれる。家族と馴染みの美容室に出掛けたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を大切に食材を選び、料理の相談と一緒に調理をしている。	敷地内の畑では色々な野菜が育てられ、採れたての野菜料理を楽しんでいる。また、巨大なキュウリが採れ、利用者も記念写真を撮り、夏の間話題となった。一人ひとりの力量に合わせ食事の下ごしらえや配膳、下膳などを職員と一緒にしている。法人の管理栄養士に、時折、メニュー表を見てもらい助言を得ている。管理栄養士による「高齢者の食事について」の研修が2日間開かれ、勤務シフトに合わせて職員は2日間のどちらかに参加し、食事の支援に活かしたという。年2～3回外食も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分摂取量を把握し、形態や食べやすい器にするなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声かけをしている。月に1度歯科医に訪問診療していただいている。		

ニチイケアセンター上田緑が丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、必要な場合は声かけを行い、不安なく排泄できるよう支援している。	半数の方が自立している。24時間の様子を記録している介護記録の排泄記録欄により一人ひとりの排泄パターンを把握しており、状態に合わせて時間を見計らってさりげなく声掛けし、出来る限りトイレで排泄するよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの取れた食事を提供し適度な運動と水分摂取を心掛けている。排便リズムを把握し、協力提携医にも相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に沿って入浴できるよう声かけ、ゆっくり入っていただけるように支援している。	週2回の入浴を基本としているが、入浴を拒む方には散歩の後、声掛けのタイミングを見てお誘いしたり、スタッフを交代するなど工夫している。入浴剤やゆず湯などに入り鼻歌でゆっくりとお風呂を楽しまれる方もいる。外出も兼ね家族と福祉風呂設置の温泉で一日過ごされて来る方もおり、一人ひとりに沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ちよく休んでもらえるように布団干しやシーツ交換はこまめにする。一人ひとりのペースで休息できるよう声かけしたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬について全職員が理解し、服薬支援と変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お琴やお茶会のボランティアが毎月訪れることで気分転換や張り合いになっている。家事を役割としてお願いし一緒に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出掛けたり、外食など支援している。普段いけないような場所は家族の協力を得られるよう努めている。	ホームの周りは閑静な住宅地であり、気候や利用者の体調に配慮し散歩している。春の上田城址公園への新緑ツアーやデザートツアー、小学校の運動会見学、大型ショッピングセンターへの買い物など、出来る限り多く外出機会を設けるよう取り組んでいる。	

ニチイケアセンター上田緑が丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い金をお預かりして事務所で管理している。外出の際は賽銭など自分でできるような支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に希望があれば電話が出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感ある作品とカレンダーを飾り、明るいフロア作りをしている。	利用者がちぎり絵で作成した月ごとのカレンダーをリビングに飾り、季節と行事等が分かるよう工夫している。リビングの椅子には杖を利用している方が置き場に困らないよう椅子に杖用のフックが付けられており利用者も大変喜んでいました。訪問調査時は11月下旬であったため立派なクリスマスツリーも飾られ季節感を演出していた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前に丸テーブルを用意し自由に使ってもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し馴染みのものを持ち込み居心地良く、かつ安全に過ごせるように工夫している。	利用者の希望によりベットや布団を敷いて休まれるなど、居室内の配置などは自由にしていただき居心地よく過ごせるよう工夫されている。家族やお孫さんの写真などを飾られている居室もあり、利用者が落ち着いて過ごしていることが窺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで手すりが全面に付いている。トイレも場所が分かりやすいよう表示の工夫をしている。		